

Nara National Museum

# 奈良国立博物館

## だより

第 **127** 号

令和5年 10・11・12月



赤地鴛鴦唐草文錦大幡脚端飾（正倉院宝物）

特別展

### 第75回 正倉院展

10月28日(土)～11月13日(月)  
東・西新館

特別陳列

### おん祭と春日信仰の美術

—特集 春日の御巫—  
12月9日(土)～令和6年1月14日(日)  
西新館

特集展示

新たに修理された文化財  
12月19日(火)～令和6年1月14日(日)  
西新館

名品展

### 珠玉の仏たち

通年  
なら仏像館

### 中国古代青銅器

通年  
青銅器館

特別展

# 第75回 正倉院展

10月28日(土)～11月13日(月)

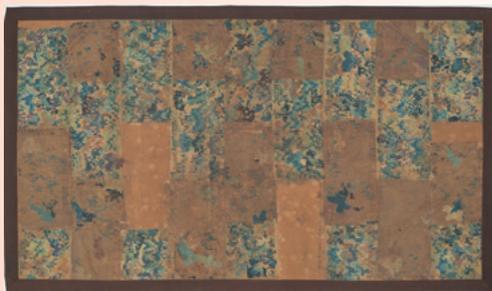
今年も秋の深まりとともに、ここ奈良の地で正倉院展が開催される運びとなりました。七十五回目を迎える本年も、多彩な出陳品から正倉院宝物の奥深い魅力をご堪能いただきたいと思えます。

正倉院宝物は、およそ九千件にもおよぶ品々から構成されています。その中核をなしているのが、聖武天皇のご遺愛の品々です。奈良時代の天平勝宝八歳(七五六)、聖武天皇の四十九日に、光明皇后が天皇のご冥福を祈って大仏に献納されました。これらの品々の詳細は、このとき作成された献納品リスト『国家珍宝帳』に記載されています。今回の正倉院展では、この『国家珍宝帳』の筆頭に記され、宝物の中でも重要な位置づけがなされる「九条刺納樹皮色袈裟」が出陳されます。仏教を篤く信奉した聖武天皇を象徴する品として注目されます。

正倉院宝物は、奈良時代の最高級の素材・技・意匠で作られた工芸品を多く伝えていることでも知られます。今回出陳される「楓蘇芳染螺鈿槽琵琶」や「平螺鈿背円鏡」は、ヤコウガイやコハクといった貴重な素材で美しく飾られ、奈良時代の貴人たちの華やかな暮らしぶりを垣間見せてくれます。一方、蛇紋岩という石材から作られた「青斑石髓合子」は、愛らしいスッポンの姿に高度な写実表現が示される逸品です。

また今年も、奈良時代の仏教に大きな足跡を残した良弁(六八九～七七三)の一二五〇年の御遠忌にあたり、良弁自筆の署名がある文書が出陳されることも注目されます。さらに正倉院事務所による宝物研究の最新の成果もご紹介し、ますます深まりを見せる正倉院の世界へと誘います。

なお、快適にご覧いただくため、本展は事前予約制と致しました。ご理解の程をお願い申し上げます。



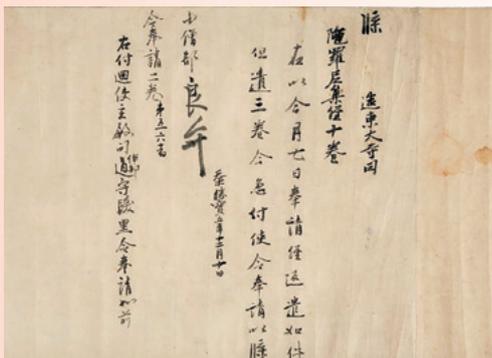
九条刺納樹皮色袈裟 (北倉)



平螺鈿背円鏡 (南倉)



楓蘇芳染螺鈿槽琵琶 (背面) (南倉)



正倉院古文書正集 第七巻 [少僧都良弁牒、法師道鏡牒ほか] (中倉)



青斑石髓合子 (中倉)

特別陳列

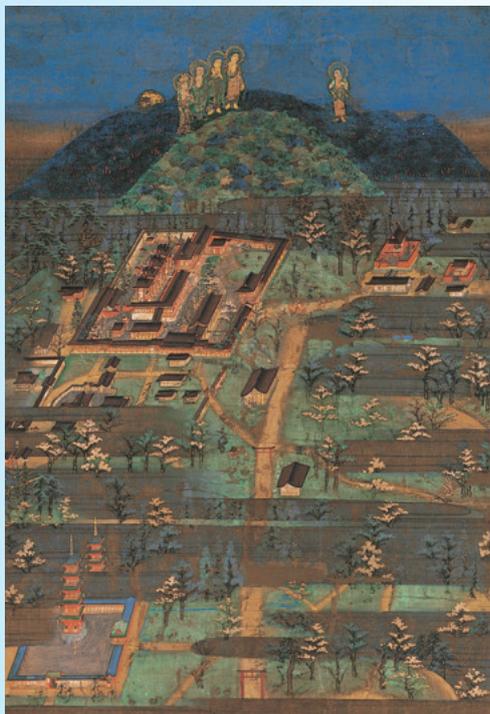
# おん祭と春日信仰の美術

―特集 春日の御巫―

12月9日(土)～令和6年1月14日(日)

春日若宮おん祭は、一年に一度、春日大社の摂社である春日若宮より御旅所へ若宮神をお迎えし、一日二十四時間にわたりさまざまな芸能を捧げる祭礼です。御旅所の若宮神のもとに祭礼参加者が詣でる風流行列や、田楽や舞楽、猿楽などの芸能神事が有名です。平安時代の保延二年(一一三六)に始まり、古儀の祭礼を守り続けて今年で八八八年目を迎えます。

本展はおん祭の歴史と祭礼、ならびに春日大社への信仰に関わる美術を紹介する恒例の企画で、今年はおん祭で神楽を舞う御巫(巫女)を特集します。おん祭の草創期から神楽を奉納してきた御巫は、中世から近世にかけては、普段は春日若宮拜殿で民衆の祈りを若宮神に届ける役割も担っていました。民衆と若宮神を結びつけた御巫の存在を切り口に、大和一国を挙げて行われた華やかなおん祭の世界をご覧ください。



春日社寺曼荼羅 部分(当館)



春日若宮御祭礼絵巻 中巻 部分(奈良・春日大社)

特集展示

# 新たに修理された文化財

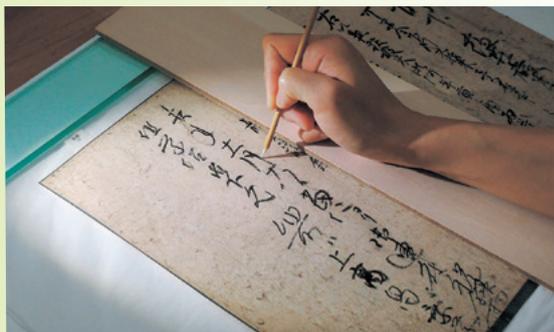
12月19日(火)～令和6年1月14日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年度計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開すると共に、その修理内容についてパネルで紹介いたします。



蔵王権現立像(当館)虫蝕処置



南都寺社古文書・古記録等(当館)剥落止め

浄瑠璃寺九体阿弥陀像修理完成記念特別展（令和五年七月八日～九月三日）

## 「聖地 南山城」の空間にひたる

帝塚山大学文学部教授 杉崎 貴英



特別展「聖地 南山城」第3章「阿弥陀仏の浄土」（7月9日～8月6日の展示風景）

「もう三回、見に行きました！」。精華町に住む大学三年生が笑顔で報告してくれたのは七月末のこと。その学生しかり、本学では南山城地域からの通学者が多い。二十歳までの二年間は京田辺市に下宿していた私にとっても、本展は格別に魅力的だった。浄瑠璃寺九体阿弥陀像修理完成記念と銘打たれた本展だが、既に二〇一四年、京都国立博物館が「南山城の古寺巡礼」を開催している（以下「京博展」）。類似するテーマの、しかも作品の重複を少なからず含むこととなる企画を、いかに新たな展示として織りなすか——本展の大きな課題の一つはそこにあつたろう。三十年来の奈良博ファンは、津々の興趣を抱きつつ開幕を待ったものである。

東新館の展示室に参入するや、霧が立ちこめる、海住山寺をつつむ風景の拡大写真に、聖地としての南山城を語る空間へと引き込まれた。第一章「恭仁京の造営と古代寺院」・第二章「密教の広がり」と山岳修験」では、禅定寺・神童寺・寿宝寺ほかの木彫仏の数々が壮観をなす。西新館に進むと前半に第三章「阿弥陀仏の浄土」・第四章「解脱上人貞慶と弥勒・観音信仰」、後半に第五章「行基と戒律復興」・第六章「禅の教えと一休禅師」・第七章「近世の南山城と奈良」がつづく（展示数一四三件）。全七章で構成された展示は、「聖地 南山城」の風光として第四章までは山を（笠置寺弥勒崖窟仏の天井に及ぶ写真パネル）展示は効果的だった）、第五章からは木津川を基調としていた観がある。第六章は酬恩庵の文化財八件からなるが、京博展では一三九件中三九件を数えていたから大きな相異

である。京都との関わりで禅の聖地という側面が加わったことを周到に示しつつも、第七章まで全体にわたり、奈良との密接な関わりこそ重んじる基本姿勢が鮮明だった。

本展の主役であり、修理後寺外初公開となった浄瑠璃寺九体阿弥陀像の二軀（第三章）は、光背を離して壁面に配し、三六〇度の観仏を可能とした贅沢な展示であった。しかも同寺のご近所、西明寺の薬師如来像を同じ部屋に迎える心にくさである。永承二年（一〇四七）銘を有するその像を含めた比較を通じ、浄瑠璃寺をめぐる彫刻史的な思索へと誘う空間となっていた。和束町薬師寺薬師如来像・木津川市蟹満寺阿弥陀如来像には一九八〇年代に酷似関係が指摘されていたが、初めて両像を並べて展示した一角（第一章）は、奈良博によるX線CT調査の写真ともども大いに目を惹いた。

本展の心にくさは、南山城を離れた作品たちを集め、往時の構成を復元したことにあった。東京で二か所に分蔵される浄瑠璃寺伝来の十二神将像が、百四十年ぶりに薬師如来坐像と再会した光景（第三章）は印象深い。「解脱上人貞慶」展（二〇一二年）プレイバックの観もあつた第四章では、その当時の新知見に加え新たな提言を含むかたちで、諸分野にわたる作品が貞慶十三回忌の空間を現出しており胸熱であった。

見たかった、気になっていた作品との出会いがかない、理解が一新されるのは、展覧会の喜びである。一九六四年の奈良博編『垂迹美術』に載る朱智神社の牛頭天王像、学生の頃『木津町史』で知った西教寺地藏菩薩像、報告書の不鮮明な写真を見るのみだった巖松院の清涼寺式釈迦像……。一つ一つの出品の背後に、関係者の努力を拝察した。

再拜する作品が違った側面を見せてくれるのも展覧会の喜びである。貞慶展にも迎えられた現光寺十一面観音坐像は今回、最近の調査で明らかになった資料群の展示とあわせ、近世戒律復興の拠点となった同寺の本尊として位置づけられていた（第五章）。なお同像の解説には拙論が汲まれていて光栄だったが、別のパネルで公式キャラクター「ざんまいず」がそれを易しく説明してくれていたのには、微笑ましく感激であった。

八月下旬に至り、X線CT調査で常念寺釈迦如来像（第五章）の内部に納入品の存在が確認されたという報道に接した。研究の蓄積に立つ展示が新たな成果を導き、開催中の展示に早くも反映される——博物館活動の素晴らしい循環にも感じ入った。

最後に重ねて私事を綴るが、今夏、若き日に奈良博の至近で学んだ義母を見送った。それから十日を経ずして内覧会に参観した折、浄瑠璃寺九体阿弥陀像の二軀がおわす空間にひたりながら、不意に格別の安らぎをおぼえたことを記しておく。仏教美術の力、その展覧会の力に思いを致しつつ、展示評ならぬ展示讃として小文を終えたい。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和5年9月26日(火)～

【彫刻】

【第1室】

阿弥陀如来立像

個人

◎観音菩薩立像

文化庁

不動明王立像

正智院

天部形立像

法明寺

善導大師坐像

念佛院

尼藍婆坐像・毘藍婆坐像

西南院

【第2室】

◎阿闍如来坐像

西大寺

釈迦如来坐像

東慶寺

◎文殊菩薩坐像

薬師寺

毘沙門天立像

如法寺

侍者坐像

当館

【第3室】

阿弥陀如来坐像

当館

阿弥陀如来坐像

現光寺

如来坐像

法徳寺

阿弥陀如来立像

善集院

阿弥陀三尊像

個人



伎楽面 迦楼羅(東大寺)

◎伎楽面 迦楼羅・崑崙・太孤父・醉胡王・醉胡徒 東大寺

【第5室】

◎誕生釈迦仏立像

正眼寺

◎誕生釈迦仏立像

悟真寺

◎誕生釈迦仏立像

当館

◎菩薩半跏像

神野寺

◎菩薩立像

法起寺

◎観音菩薩立像

法徳寺

◎観音菩薩立像

興福院

◎観音菩薩立像

法隆寺

◎観音菩薩立像

観心寺

◎観音菩薩立像

金剛寺

◎観音菩薩立像

新薬師寺

◎観音菩薩立像

仏手

如来坐像

当館

◎誕生釈迦仏立像

個人

◎二仏並坐像

当館

◎菩薩立像

個人

◎十一面観音菩薩立像

個人

◎如来立像

光明寺

◎如来立像

当館

◎方形独尊坐像博仏

当館

◎三尊博仏

南法華寺

◎火頭形三尊博仏(伝橘寺出土)

当館

◎小型独尊博仏(三重県夏見廃寺出土)

当館

◎塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

当館

(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

◎塑像断片(天部・僧形像ほか)

明日香村教育委員会

(滋賀県雪野寺出土)

◎薬師如来立像

福命寺

【第6室】

◎元興寺

如来立像

当館

阿弥陀如来坐像

歡喜寺

◎薬師如来坐像

海住山寺

◎不動明王坐像

普門院

◎特別公開

10月24日

◎金剛力士立像

金峯山寺

◎広目天立像

興福寺

◎天部形立像

兵庫県

◎伽藍神立像

当館

◎光背(二月堂本尊所用)

東大寺

◎観音菩薩立像

当館

◎観音菩薩立像

文化庁

◎観音菩薩立像

勝林寺

◎手観音菩薩立像

観心寺

◎十一面観音菩薩立像

園城寺

◎十一面観音菩薩立像

地福寺

◎十一面観音菩薩立像

勝林寺

◎十一面観音菩薩立像

新薬師寺

◎十一面観音菩薩立像

薬師寺

◎如来三尊像

当館

◎如来三尊像

個人

◎十一面観音菩薩立像

当館

◎四天王立像残片

西大寺

◎阿弥陀如来立像(裸形)

浄土寺

◎梵天立像

秋篠寺

◎救脱菩薩立像

秋篠寺

◎明星菩薩立像

弘仁寺

◎地藏菩薩立像

大福寺

◎地藏菩薩立像

万福寺

【第10室】

◎不動明王坐像

正寿院

◎不動明王立像

妙法院

◎馬頭観音菩薩立像

浄瑠璃寺

◎軍荼利明王立像

園城寺

◎大威徳明王騎牛像

当館

【第11室】

◎閻魔王坐像

金剛山寺

◎伊豆山権現立像

当館

◎大将軍神坐像

大将軍八神社

◎蔵王権現立像 五軀

大峯山寺

◎十二神将立像(子(巳)神)

当館

◎持国天立像・増長天立像

法徳寺

◎天部形立像

個人

【第12室】

◎二天王立像

室生寺

◎毘沙門天立像

高尾地藏堂

◎帝釈天坐像

室生寺

◎毘沙門天立像

当館

【第13室】

◎金剛力士立像像内納入品

金峯山寺

◎阿弥陀如来立像

浄土寺

◎菩薩面 三面

浄土寺

◎破損仏像残欠コレクション

当館

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

【絵画】

令和5年12月9日(土)～令和6年1月14日(日)

◎水室神社縁起絵巻

水室神社

◎熊野本地仏曼荼羅

錦織寺

◎日吉山王垂迹神曼荼羅

曼殊院

◎北野天神縁起絵巻 卷中 津田天満神社

藤原鎌足像

◎生駒官曼荼羅

往馬大社

◎春日茶枳尼天曼荼羅

当館

◎伊勢両宮曼荼羅

正暦寺

◎北斗九星像

宝厳寺

◎融通念仏縁起絵

安楽寺

【書跡】

令和5年12月9日(土)～令和6年1月14日(日)

◎大般若経 卷二百四十六(長屋王願経)

瑞光寺

◎三品弟子経(中聖武)

当館

◎法華経 卷一(蝶鳥下絵料紙)

当館

◎一字蓮台法華経 卷第三

龍興寺

◎三社託宣

当館

◎慈悲万行菩薩名号

個人

◎生馬大明神縁起

往馬大社

◎多武峯年中行事

談山神社

【考古】

令和5年12月9日(土)～令和6年1月14日(日)

◎弥生時代の青銅器

当館

◎銅鐸(和歌山県みなべ町出土)

当館

◎銅鐸

妙国寺

## ◆キャンパスメンバーズ

令和5年10月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、関西学院大阪インターナショナル、京都大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校・同志社国際学院国際部、奈良大学、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

## ◆奈良国立博物館賛助会

令和5年10月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員7団体、一般会員(団体)13団体、一般会員(個人)108名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 株式会社新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートボックス、(株)ゴードー、(株)大和農園ホールディングス、(株)葉風泰夢、結の会

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、(株)ワールド・ヘリテイジ、奈良県有名専門店会

〔個人会員(新規)〕

森崎 公平様 令和5年7月ご入会  
浦田 登志子様 令和5年8月ご入会  
松山 明弘様 令和5年9月ご入会  
柳楽 奈美様 令和5年9月ご入会

## ◆「奈良博メンバーシップカード」

### 「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展(記名者本人のみ4回まで)や名品展・特別陳列(常設展)を無料でお楽しみいただける「奈良博メンバーシップカード」を販売しております。「奈良博メンバーシップカード」の特典として、各特別展にて研究員の解説付きの特別鑑賞会(抽選制)を実施しております。

また、国立博物館4館の平常展(当館では「名品展」)等を無料でご観覧いただける「国立博物館メンバーズパス」も販売中です。

詳細は右記QRコードからご確認ください、当館観覧券売場へお問い合わせください。



5,000円  
博物館だより送付「有」



4,500円  
博物館だより送付「無」

銅鐸(静岡県浜松市出土)	当館	念珠	◎螺鈿玳瑁唐草合子(念珠入)	當麻寺
銅矛(愛媛県四国中央市出土)	当館	錫杖頭	◎錫杖頭	当館
銅矛(長崎県対馬市黒島出土)	当館	錫杖頭	◎錫杖頭	当館
青銅にこめられた祈り		輪宝羯磨獅子蒔絵戒体箱	◎輪宝羯磨獅子蒔絵戒体箱	万徳寺
◎銅鏡(奈良県大和天神山古墳出土)当館	談山神社	◎金銅装戒体箱	◎金銅装戒体箱	天野山金剛寺
◎粟原寺三重塔伏鉢		◎銅仏餉鉢	◎銅仏餉鉢	金剛峯寺
◎線刻蔵王権現鏡像		◎鑄銅三具足	◎鑄銅三具足	聖衆来迎寺
(奈良県金峯山経塚出土)	金峯山寺	◎銅板法華経		
伝山口県長門一ノ宮経塚出土品	当館	◎種子華鬘	◎種子華鬘	当館(細見亮市氏寄贈)
◎額安寺五輪塔(忍性塔)納置品	文化庁	◎金銅尾長鳥文華鬘	◎金銅尾長鳥文華鬘	当館
独鈷杵・五鈷杵・宝珠杵・羯磨		◎綾張竹華籠	◎綾張竹華籠	当館
(鳥取県鳥取市出土)	当館	◎紙胎漆塗彩絵華籠	◎紙胎漆塗彩絵華籠	万徳寺
		◎刺繍三昧耶幡(四)	◎刺繍三昧耶幡(四)	当館
		◎刺繍三昧耶幡(十四)	◎刺繍三昧耶幡(十四)	当館

◎刺繍三昧耶幡(四)	当館	◎刺繍三昧耶幡(十四)	当館
------------	----	-------------	----

## 名品展 中国古代青銅器 坂本コレクション

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎「国宝」、○「重要文化財」

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

## 【表紙解説】

### 赤地鴛鴦唐草文錦大幡脚端飾

(幡の下端につけた飾り)



一 枚  
絹製 錦(複葉綾組織緯緯錦)  
縦三九・七 横四六・三  
奈良時代 天平勝宝九歳(七五七)  
正倉院宝物(南倉)

聖武天皇の一周忌齋会(いっしゅうさいえ)で東大寺に掲げられた灌頂幡(かんじょうばん)という長大な幡の下端に取り付けられた錦の飾り。この幡は当初の全長が最短でも一三メートル以上あったと試算されており、本作は一旒(ひとたな)につき十二条あった幡脚(ばんあし)の飾り一つと言っても実に大きい。

赤地の錦には文様の直径が約四十七センチもある大きな文様が織り出され、一つの花を共に銜(くは)えた対のオシドリに見る細かな羽根や、それを囲んで波状に連なる唐草の生命感ある自由な表現が見事である。

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」な話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■10月15日(日)

### 「獅子・狛犬の魅力」

内藤 航(当館学芸部研究員)

神社に参拝する人びとを迎える一対の狛犬。本当は獅子・狛犬と区別されることをご存じですか。ふたつの霊獣が会うまでには長い道のりがあり、ここ日本で独自の発展を遂げました。その歴史と造形の魅力をお話します。

[受付期間 9月29日(金) 12:00~10月14日(土) 17:00]

■11月19日(日)

### 「文化財を科学するⅧ」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

古代から近世にかけて製造された日本の貨幣について、東京国立博物館が所蔵するコレクションを科学分析した結果を中心に、最新の成果をお話します。

[受付期間 11月2日(木) 12:00~11月18日(土) 17:00]

■12月17日(日)

### 「藤原道長と紫式部の時代」

斎木 涼子(当館学芸部列品室長)

平安時代中頃の貴族たちはどのような社会に生きていたのか、「撰閔政治」とはどのようなものであったのか、貴族の日記や文学作品から、時代を読み解きます。

[受付期間 12月1日(金) 12:00~12月16日(土) 17:00]

■1月21日(日)

### 「東日本大震災文化財レスキューの今」

荒木 臣紀(当館学芸部上席研究員)

今でも行われている東日本大震災で被災した文化財の保存修理活動の中から、津波による被害を受けたガラス乾板が保存修理を行いながら展示活用に向けて再評価されていくお話しをします。

[受付期間 1月5日(金) 12:00~1月20日(土) 17:00]

■2月18日(日)

### 「イギリス王子たちがみた日本—明治14年の旅行記と古写真から—」

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

明治14年(1881)、イギリスの王子たちが日本を訪れ、奈良に立ち寄りました。彼らは正倉院で宝物を拝観し、他にも多くの社寺をめぐる。彼らは何を見て、何を感じたのでしょうか。当時の奈良の状況とあわせてお話します。

[受付期間 2月2日(金) 12:00~2月17日(土) 17:00]

■3月10日(日)

### 「松帆銅鐸の軌跡」

定松 佳重氏(南あわじ市埋蔵文化財調査事務所主任)

2015年に南あわじ市で7点の銅鐸と舌が発見されました。調査が進むにつれ次々と新しい事柄が判明し、銅鐸研究に大きな波紋を広げました。今年で8年目を迎えた松帆銅鐸の軌跡をお話します。

[受付期間 2月22日(木) 12:00~3月9日(土) 17:00]

【時間】 14:00~15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ウェブサイトより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

■10月28日(土)

### 「宝物に込められた祈り—転輪聖王としての聖武天皇—」

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

■11月4日(土)

### 「正倉院文書の復原—いわゆる「常陸国戸籍」について—」

三野 拓也氏(宮内庁正倉院事務所保存課調査室員)

■11月11日(土)

### 「正倉院の箱を観る」

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

【時間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回180名(事前申込抽選制)。

【応募方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 9月27日(水)10:00~10月10日(火)17:00

【参加証の送付】 当選者には、10月16日(月)までに参加証(当選メール)をお送りします。当日必ずご提示ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※参加証で正倉院展会場に入場することはできません。

※正倉院展会場への入場は時間指定制です。講座の受講に関わらず指定時間外の入場はできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

■12月24日(日)

### 「神楽で祈りを伝える」

松村 和歌子氏(春日大社国宝殿学芸員)

【時間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 180名(事前申込抽選制)。

【申込方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 11月27日(月)10:00~12月11日(月)17:00

【参加証の送付】 当選者には、12月15日(金)までに参加証(当選メール)をお送りします。当日必ずご提示ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

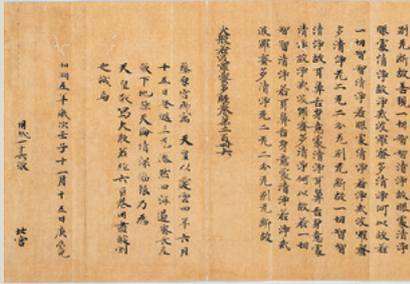
※参加証で展覧会場に入場することはできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

名品展「珠玉の仏教美術」

だいほんにゃきょう  
大般若経 卷第二百四十六  
ながやおうがんきょう  
(長屋王願経)

重要文化財  
紙本墨書  
縦23.8cm 長753.8cm  
奈良時代(8世紀)  
京都・瑞光寺



奈良時代初期の皇族の有力者、長屋王(684~729)が発願した写経。和銅5年(712)11月15日の日付をもつ、わが国最古級の『大般若経』であり、あわせて200巻以上が各所に現存する。

巻末の願文には、写経を企画した経緯が記されている。慶雲4年(707)に文武天皇が崩御し、天下が悲しみに沈んでいたため、長屋王はこの『大般若経』600巻を書写させ、心から哀悼の意を表した、という内容である。長屋王と文武天皇は、ともに文武天皇の孫にあたり、異母兄弟の高市皇子と草壁皇子それぞれの子であった。願文の末尾には「北宮」と記されており、これは高市皇子の資産を継承した家政機関の名称と考えられている。際立つ血統と資産をあわせ持った長屋王は、神亀6年(729)ついに謀叛の疑いをかけられ、妻の吉備内親王と子息4人とともに自死に追い込まれてしまう。世に言う「長屋王の変」である。

ところで現在、平城宮跡に復原された大極殿と大極門の扁額(へんがく)の文字は、平城遷都当時の書の基準作であるこの長屋王願経から集字されている(ただし本巻とは別の巻の字)。展示をご覧になる際は、ぜひ巻末の願文から「大」「極」「殿」の3文字を探してみてください。国家を象徴する建物を指すこの3文字は、奇しくも全て長屋王の願文の中に揃っているのだ。

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

展示品の  
みどころ

名品展「珠玉の仏教美術」

かすがだきにてんまんだら  
春日茶枳尼天曼荼羅

絹本着色  
縦94.5cm 横38.6cm  
室町時代(16世紀)  
当館



当館の春日曼荼羅コレクションに加わったばかりの新顔で、今回が初のお披露目となる。

まず目を引くのは、月に見立てられた巨大な白色の円相である。

春日大社の神域である御蓋山の上空に浮かぶその圧倒的な存在感は、神の顕現を強く暗示する。その下方左右に浮かぶ小さな円相に配されるのは、北斗七星の第一星(貪狼星)と虚空蔵菩薩という天空の星々を象徴する神仏。さらに、狐に乗る茶枳尼天と、合掌する勢至菩薩が、左右から下端の朱の鳥居に向かって飛来する。ここに描かれるのは、他の春日曼荼羅の作例ではまずお目にかかることのない神々や菩薩ばかりだが、実はいずれも伊勢神宮への信仰とも深く結びつく神仏であることに変異興味もたれる。

本図は、伊勢信仰や星宿信仰、茶枳尼天に対する祈りなどが複雑に投影された他に例を見ない春日曼荼羅の逸品であり、中世において多様に展開した春日信仰の姿を示す絵画資料としても高い価値をもつ。

谷口 耕生(当館学芸部企画室長)

■開館日時(10月~12月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時

※「第75回正倉院展」会期中(10月28日~11月13日)は、正倉院展は午前8時~午後6時(金・土・日曜日・祝日は午後8時まで)、名品展は午前9時~午後6時(金・土・日曜日・祝日は午後8時まで)

※名品展は10月・11月の毎週土曜日は午後8時まで、12月17日(日)は午後7時まで。

※入館は開館の30分前まで。(正倉院展は開館の60分前まで)

■休館日 / 毎週月曜日、12月28日~1月1日

※正倉院展会期中は無休。

※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリロIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■前売日時指定券料金「第75回正倉院展」

(当日券の販売はありません)

	一般	高校・大学生	小・中学生
前売券	2,000円	1,500円	500円

※観覧には原則、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です(無料対象の方を除く)。  
※レイト割は月~木曜日は午後4時以降、金・土・日曜日、祝日は午後5時以降の「日時指定券」に適用されます。

※障害者手帳またはマイリロID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)、未就学児、レイト割(小中学生)、奈良博メンバーシッププレミアムカード会員の方(1回目及び2回目)、観覧)、賛助会員(奈良博、東博[シルバー会員を除く]、九博)、満員会会員(京博)、特別支援者は無料。

※無料対象の方は、「日時指定券」の購入は不要です。証明書等をご提示ください(小中学生以下は不要)。  
※キャンパスメンバーズ会員の学生は、奈良国立博物館と連携する特定の大学等に属する学生のみが対象となります。当日会場入り口で学生証の提示が必要です。提示いただけない場合は、差額をお支払いいただきます。

※キャンパスメンバーズ会員等は、当館ウェブサイト(https://www.narahaku.go.jp/members/campus/)でご確認ください。  
※キャンパスメンバーズの学生が観覧して通常料金で「日時指定券」を購入した場合も、払い戻し等はできませんのでご注意ください。

※日時指定券は、ローンチケット(コード59995)インターネット(https://l-tike.com/75shosoin-ten/)、ローンおよびミニストップ各店舗、ONプレイガイド[コード※入館開始時間ごと①午前8~11時 262-256、②正午~午後4時 262-257、③午後4時30分以降 262-258] [電話(動音声) 0570-08-9920]による受付のみ、展覧会オンラインチケット(https://www.e-tix.jp/shosoin-ten/)で販売します。当館観覧券売場での販売はありません。

※本展の観覧券で、名品展(なら仏像館 青銅器館)もご覧いただけます。

※詳細は、当館ウェブサイト等でご確認ください。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。